

chapter9 Bad Neighborhoods the contexts for war

127-1

人口密度の増加や交易、婚姻関係の発達、必ずしも戦争を促進しない。

では、何が戦争を促進するのか？

結論から述べれば、それは暴力行為に対する復讐とさまざまな経済的動機である。

そうだとすると、好戦的な集団、きびしい経済的困難、紛争解決のための制度や非暴力を主張する共通の価値観の欠如、などの状況下で戦争は頻発するといえる。

このような状況は、“bad neighborhoods”（ろくでもない隣人）のいる環境でみられる。

127-2 “Rotten Apples” and Raiding Clusters

J.Jorgensen：北西インディアンの急襲活動はいくつかに分類できる。

戦争の激しい地域、好戦的な社会が存在する。

ex) 北太平洋北西岸、高原南端の Klamath-Modoc、高原北端の Thompson、
南西部の Navajo-Apaches、コロンビア川下流の Mohave-Yuma

...彼らは近隣の敵だけでなく、遠方の集団を襲撃することも多い。

ex) アラスカ半島の Tlingit がブリティッシュ湾まで急襲にきた。Mohave がカリフォルニア沿岸の集団を攻撃した。

・遠隔地への急襲団が略奪したもの

奴隷（太平洋北西岸、Klamath-Modoc）

食物・携帯できる品物（Apaches、Thompsons、Mohave）

領域（北西岸、コロンビア川下流域）

北アメリカ、南アメリカ、南東アフリカ、東アフリカ、ニューギニアなどでもみられる。

...戦争の激しい地域では、ろくでもない集団が暴れ回っている。

128-1

西洋史においても類似したパターンが認められる。

Ex) ロマ帝国、古代後期ドイツ、中世スカンジナビア（ヴァイキング）

16 世紀スペイン、17 世紀フランス、18 世紀フランスの革命軍、19 世紀アメリカ、20 世紀ドイツ・日本

128-2

攻撃的な近隣集団 防戦 反撃...戦力を強化する 戦争が激しくなる

ex) Pueblo（アメリカ南西部）：好戦的な Apache-Navajo の急襲に長年耐えてきたが、Apaches がアメリカに平定されて力が衰えると、Pueblo の軍事タリオンクラブでは Apaches への反撃が慣習化されるようになった。後に Pueblo はスペイン人の勇敢かつ効果的な同盟者として牧畜民と戦争をした。

129-1

なぜある社会は他の社会よりも攻撃的であろうとする傾向があるのか？ 人類学的・歴史的な謎
土地への欲望...領域拡大が戦争激化に関わるのかどうか未だ論争中

人口増加：侵略国家の多くは、急激な人口増加を経験している（ex：1890-1913 のドイツ）

女性や子どもの捕虜が組み込まれて人口が増加する（ex：スーダンの Nuer）

攻撃的なアメリカ先住民は、旧大陸系の病気による人口減少を経験している。

好戦的な集団ほど、近隣集団よりも兵力の減少が緩やかで、攻撃全盛期に人口が増加する傾向がある。

ex) Mohave：最も激しい領域拡大期（1770s ~ 1872）に 3000 人 4000 人に増加した。

Maricopa（Mohave の敵）：3000 人 400 人に減少した（もとは病気が原因）

129-2

人口増加 経済上の要望や社会制度への圧力がかかる 人口圧

若い男女が増える 婚資や嫁入り道具が必要 多くの価値物が必要とされる

リーダーや上位階層の役割が制限される社会においては、その地位をめぐる競争がおこる。

財や軍事的勇気が必要 ほかの社会集団への急襲や略奪が促進される。

Ex) 東アフリカの諸部族：各年齢階梯では、他部族への急襲のみによって年功権が得られる。

このような人口圧は、人口の絶対量や絶対密度ではなく、相対的な増加率によって生じる。

人口増加は戦闘を促進するだけでなく、より大きな人員源（増加する死傷者を補い、より大きな軍隊を編成できる）を提供する。

129-3

食料生産、運搬、兵器に関する新しい技術の発達と導入

ex) 航海術 ヨーロッパ 拡大 旧世界の馬 アフリカ先住民の人口と軍事に影響

アケイ（細身の投げ槍）の発達とその使用に関わるいくつかの戦術的革新 Zulu 拡大

鉄器生産 アフリカにおける Bantu 拡大 乗馬 ユーラシアにおけるインド-ヨーロッパ語族の拡散

土地不足、人口増加、技術革新 より攻撃的な社会があらわれ、戦争は放射状に激化する。

130-1

好戦的な社会は永続するわけではない。

Ex) 日本：250年間、平和な非武装国（侍階級を除けば）であったが、ペリ総督の来航によって好戦的な悪霊が解き放たれ、2世代後の日本の戦闘的な性格はひどかった。しかし、1945年から2世代後、再び日本は非武装で世界でも暴力犯罪率が最も低い国のひとつになった。

Iroquois、Navahoの好戦的な性格も変化した。

好戦的な集団 規模が大きい or 技術的に勝る集団に平定される

or

過度な領域拡大による不利益を知る or 合併や搾取の誘惑に屈することで、領域拡大への熱意が減衰する

...軍事的な蛮行は、どのような人種、文化にとっても固有な性質ではなく、一般的に、自己衰退の種をまくような一時的状況である。

130-2 Frontiers

最近の人類学研究

...異なる文化、経済形態、民族系統をもつ集団間の境界域は緊張、競争というよりは、「開かれた社会システム」の場である...交易、就労、婚姻、情報交換

互惠的交換 戦争抑止という暗黙の解釈がみられる。

ヨーロッパ文明国との境界域を例外として、そのほかの境界域は交換と協業の場である。

131-1

このような見解は、境界を明確な壁というよりは、透過性のある紙のようなものとみなしている。

3つの見落としによって、多くの人類学者は境界における平和に関して楽観的すぎる。

131-2

境界においては資源が制約され、自集団内での単純な資源の取得方法（分配、互惠制、リーダーによる再分配）を超越した交換がなされるため、暴力によってそれらの資源を手に入れようとする傾向が強まる（8章参照）。

131-3

境界地域では、復讐を抑制する社会的、文化的特徴が必ずといっていいほど欠けている。

独立した社会は、ヘッドマン、協議会、首長などの調停制度をもたない。

殺人を恐ろしい行為、超自然的な不穏として扱うような連帯の価値観が欠けている。

Ex) 17th 教徒の第 6 の戒律 “Thou shall not murder” ...murder は自集団構成員の殺害を意味し、戦争での敵の殺害は意味しない。 カン侵攻も戒律に反さない。
...自 / 他を対置する連帯感、異集団に属する個人間の争いを集団間の戦争まで促進させる。
多くの情報が社会領域を越えて交換される境界域は、争いが熾烈になるかもしれない。
Ex) 民族蔑称 (Sioux Bannock = 「ボロ小屋のやつら」。 Yavapai Pima = 「敵」。 Etc ...)
このような民族蔑称は暴力に対する法的、文化的規制のゆるい地域で見られる。

131-4

境界域は急襲にもっともさらされる場であり、敵の略奪、報復の影響をもっとも受けやすい。
ふつう集住しないため、攻撃されやすい。
境界域の被攻撃性と攻撃揮発性は、境界域にしばしば無人の緩衝地があり、居住地が壁で防御されている理由を説明している。

132-1

文化境界域の 3 類型： 文明 - 部族 牧畜 - 農耕 農耕 - 狩猟採集
文明 - 部族...居住地や行政管理地を含む境界域が変動した場合に戦争が起こる。
牧畜 - 農耕...国家権力によって戦争は抑止され、平定後でさえ緊張状態がつづく
平定されていない牧畜 - 農耕境界域：ex) 東アフリカの好戦的な Masai (牧畜民) と Bantu (農耕民)
農耕 - 狩猟採集...考古学的な議論に集中するため、農耕 - 狩猟採集の民族誌、民族史を平和な境界域の概念を検討するのに使う。

132-2

農耕 - 狩猟採集の境界域を平和だと考える人類学者が挙げる例
...中央アフリカ熱帯林の Pygmy (狩猟民) と Bantu、Negro (農耕民)
Bantu の発言「Pygmy は実は Bantu が支配しており、奴隷あるいは召使いである」
...主人である Bantu があまり協力的でないとき、Pygmy はしばしば穀物を盗みにいった。
Pygmy の加リ研究：農耕民から手に入れる大量(約 65%)の食物なしでは熱帯林で生活できない。
Pygmy は自分たちの言語をもたず、バントウである Negro の言葉を話す。
...食物不足と多勢の Bantu による破壊の結果、Pygmy は Bantu に従属し、平和を維持している。
熱帯林の相互援助的な農耕 - 狩猟採集の関係は、狩猟採集民の食物依存と従属によるものである

133-1

「平和な境界域」を主張する人は、熱帯林以外で見られる農耕民と採集民の顕著な敵対関係を、文明による植民の結果であると勘違いしている。

133-2

ex) Khoikhoi (牧畜); 南ア・ケープ地域：はじめてヨ-ロッパ人と遭遇したときから San (狩猟採集) と戦争をしていた。ヨ-ロッパ人をこの戦争の同盟者として迎えた。
San = 「役立たずのごろつき」という意味の蔑称
San - Bantu の戦争 (口頭伝承) ...Tswana 語で San = Masarwa (Ma = 敵部族に付ける接頭辞)
南東アフリカでの San - Nguni Bantu 戦争...San の岩壁画に描かれている (図 9. 1)
...背の低い射手である San が、盾・槍・ノブ・クリ(投げ棒)を持った長身の Nguni と戦っている。
Bantu の首長が、ウシを San に殺されたため、彼らを皆殺しにするよう戦士に命じた。
Bantu 内部の戦争では女子どもは殺されないが、急襲してきた San は性別年齢関係なく殺される。
San の弓と毒矢は、Bantu の盾、棍棒、槍に対して効果的だが、皆殺しはなかなかできない。
岩だらけの土地は戦略的に San に有利
...ある種の力の均衡が成立している。
Sotho Bantu の銃を使った狩りが動物を不足させた San の家畜襲撃 戦争
...農耕牧畜民の狩猟活動や耕作と放牧による生態系の変容によって動物が減少 狩猟民の家畜襲撃
武装して馬に乗ったホ-ア人がやってきて、市民軍によって San を制圧した。

134-1

農耕牧畜民と狩猟民は交易、婚姻、従属などの関係をもちながらも、敵対関係が継続された。

135-1

農耕牧畜民と狩猟民の主従関係は穏和な性質のものだと歴史学者や人類学者は考えている。

ex) Tswana 首長：「San は奴隷だから殺してもよい。ウシみたいなものだ。もし逃げたら捕まえて罰を与えてよい。奴らが草原に住んでいて、私が働かせたいと思えばいくらでも捕まえることができる。」

...「閑散な境界地域では収穫期に労働力が不足するため狩猟民を雇う」という主張とは異なる。

農耕牧畜民にとって、狩猟民を奴隷とすることは、家畜襲撃者を排除するのにも有益である。

ex) Tswana とはじめて接触したときから、Kung!San は脅されて奴隷的立場を受け入れたらしい。

135-2

穀物や家畜の略奪は、農耕牧畜民どうしてもおこなわれる。

ex) Navajo と Tewa Pueblo、アリゾナの西 Apaches、中央ブラジルの Mura

牧畜民、採集民...高い移動性、広い領域 捕まえにくい

...採集民、牧畜民、農耕民が敵対していないと主張するのは、希望的意見である。

136-1

文化境界の変動 ある人種、言語、文化、経済システムが他者を犠牲にして広がることを意味する。

人々は伝統的な生活様式、領域、政治的独立を守ろうとする 戦争

大規模な移民 限られた資源をめぐって原住民と争う。

ex) ロマとケルト、ドイツと西ヨーロッパ、中世後期スペインとカリブ諸島の Gaunche 部族、中世日本とアイヌ、近代日本と台湾原住民、近代ヨーロッパとその植民地

136-2

先史時代の境界域でも暴力は一般的とまで言わずとも少なくとも存在したという証拠がある。

ex) 北アメリカ東部：AD900～1400年にミシシッピ人が侵入 新しい居住地のほとんどが要塞化

Oneota 集落の拡大に接するイリノイ北東部からのミシシッピ人の後退

...暴力による死亡率の高さと要塞集落の存在にみられる。

AD1300～1500年の中部マナディ(原 Mandan)と Coalescent(原 Arikara)間の変動的な境界近辺

...要塞集落の集中や Crow Creeke 遺跡の虐殺痕跡などがみられる。

AD1050～1300年の Anasazi によるユタ州北西部の占拠...集落の要塞化と破壊の頻発

同時期に縮小したアリゾナの Hohokam 領域の周縁部で暴力の痕跡がみられる。

敵対する境界域は北アメリカ地域の後期先史時代においても普通だった。

137-1

ex) 6000～7000年前の西ヨーロッパ：移住してきた初期新石器・農耕民と中石器・狩猟採集民の対立
カタール土器文化...地中海沿岸の農耕適地に環壕集落を形成

在地採取民...不安定な遺跡を形成し、農耕民の土器や家畜を獲得していた(おそらくは略奪)

フランス南部のカタール土器文化遺跡...断頭痕のある人骨 中石器文化・採取民に形質学的に類似する農耕民が採取民を殺害し、頭蓋骨を戦利品として所有していた。

ドイツなどの低地帯に移住してきたリアー土器文化...要塞集落をとまなう(図9-2)

ベルギーでは要塞集落と中石器・採取民居住地の間に20～30kmの無人地帯がある(図9-3)。

ある集落では、ほとんどの住居が焼けた後で、集落が要塞化されている。

Ofnetの首級や Talheimの墓群が示すように、農耕民と採取民の関係は平和なものではなかった。

人骨資料が少ないので、中石器文化の武器で殺された農耕民あるいはその逆の直接証拠はない。

それでもやはり要塞集落の存在は農耕民 採取民の敵対関係を暗示する。

新旧両世界の証拠は、先史時代の境界域が後世の例のように、静穏とは程遠いことを示している。

138-1 Hard Times

産業革命以前の戦争をとりまく環境についての最近の通文化研究では、もっとも頻繁に戦争を起こす非産業化社会は「予想はできるが予知はできない災害の歴史をもつ」... 予測的、慢性的な食物不足（高緯度地域の冬の終わりから春先にかけてなど）などは含まない自然災害、牧草地・耕地の悪化、予測しうる未来の損失 損失を埋め合わせるために戦争をする。

139-1

干ばつは、災害が引き起こす戦争の例を頻繁に提供する。

ex) Pueblo (アメリカ南西部) を襲撃する遊牧民は、干ばつの年にとくに活動的になる。

Hopi...Apaches が襲撃でなく交易しにやって来るのは、彼らの来る方向に雨雲が見えるときだけ Maricopa (アリゾナ) ... 攻撃的襲撃はコロラド川やヒラ川の最低水位に関連する。

北ア人、ファイルム (エジプト中北部) のアジア・アラブ系遊牧民、古代エジプト・ナイル三角州の境界民

19世紀初頭・アフリカ南部・Bantu 部族間の戦争、12世紀・アメリカ南西部の長期干ばつ

...死に物狂いになった人々は、食人さえも引き起こした。

140-1

先史時代の激しい戦争のほとんどは、環境変化による苦境と相関している。

ex) AD1300年直後のササガコでの激しい戦争... 中西部平原からの農民の移住による環境変化

140-2

どのような経済形態、社会組織も、自然災害あるいはそれらが戦争に与える起動力から免れ得ない。

大国や帝国... 一地域での飢饉はより良好な地域や食糧の集約地からの輸送によって改善できる。

小さな社会... 必要な供給は徒歩、動物、カヌーなどによる実践的な輸送手段では遠すぎる。

慈悲深いとは限らない外部との交易... 交易自体が戦争を誘引するものですらある。

...より大きく、密集し、技術的に洗練された社会が森林破壊、過度の放牧、土壌の塩類化、新たな伝染病の発生、思慮分別のない経済処置などをつくりだすより大きな潜在力をもっている。

苦境は他者から不足したものを奪うことが必要な人々にとって、とても強い誘惑をつくりだす。

141-1

災害による戦争では、攻撃される側がより自然災害に苦しめられている。

災害時には、多くの土地や大量の穀物を有するどんな集団も生存のリスクを負うかもしれない。

ゆえに戦争は存在を賭けた苦闘となる。

もちろん、すべての戦争がこのような状況下で起こるわけではなく、ときに人々は、飢えのあまり弱まりすぎて戦えないこともある。

しかし、自然災害はあきらかに戦争の頻度と激しさを増加させる苦境である。